

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1 発見と感動により、学ぶことの喜びや大切さを教え、教職員が一丸となって生涯学習を可能にする学力と意欲を育成する。
2 生徒一人ひとりが自己の価値に気付き、自尊心を高め、夢や希望の実現に向かって健康的で人間性豊かな人材を育成する。
3 ものづくり教育等を通して創造する力を高め、日常の問題を解決し、地域社会に貢献する創造的人材を育成する。

2 中期的目標

1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成 (1)特色ある総合学科の教育活動を通じて社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の育成をはかる。 ア 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じた、きめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、生徒が学校や社会で困らないために3方面（社会面・学習面・身体面）から支援を行う。 イ 「ものづくり」を通して、将来のキャリア像を現実化と自己肯定感を高めさせる。 ウ 急速なグローバル化により、様々な場面でコミュニケーションが要求される時代を生きるために、コミュニケーション能力の育成をはかる。 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「この学校は、他の学校にない特色がある」(R4 90% R5 84% R6 86%)を令和9年度には85%以上を維持する。 (2)教員のスキルアップにより魅力ある学校づくりをめざす。 ア 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修や、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。 イ 内外の研修機会を利用して個々の教員の価値観を広めるとともに、新たな教育実践に挑戦し質の高い学びを提供する。 ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」(R4 84% R5 77% R6 78%)を令和9年度には80%以上にする。
2 基本的生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進 (1)教育活動全般を通して、基本的生活習慣と公共マナー等の規範意識を育む取組みを推進する。 ア 社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付けさせる。 学校に登校できない生徒、学校に来ても授業に入れない生徒に対して、中学校や家庭等と連携することにより指導の充実をはかる。 イ 授業以外にも生徒が学校へ来る理由を作り登校習慣を高める。また、中途退学・不登校を未然に防止するため、関係機関との連携やSC、SSW等の専門人材の活用を進め、生徒の状況に応じた教育活動を推進する ※中途退学する生徒(R4 9名 R5 5名 R6 1名を令和9年度までに6名以下にする。 (2)キャリア教育の推進 ア 探求活動を通じてコミュニケーション力を向上させると共に、ハローワークや地域企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養い、自己理解を深め、主体的に進路選択をできることをめざす。進路選択支援と就労への準備を進め就職内定率100%維持をめざす。 イ 生徒への進路保障を充実させるために、地域企業との連携や信頼関係づくりに努めるとともに、生徒にライフプランニングを思考させ、職業意識や社会的スキルを高める。 ウ 創造的人格を形成するため、アイデアを形にする方法を習得させ自信を高めチャレンジ精神を養う。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答える生徒(R4 90% R5 84% R6 86%)を令和9年度までに90%以上にする。 (3)地域連携の推進 ア 地域の学校への出前授業、イベントやボランティア活動に積極的に参加させ、コミュニケーションスキルやボランティア精神を養うと共に、地域に根ざした教育活動を展開する。 ※地域イベントや出前授業への生徒の参加を、(R4 4回 R5 回 R6 2回)令和9年度には年間3回にする。 イ 地域の各種団体との交流を進め広報と地域の情報交換を推進する。
3 安全で安心な学校づくりの推進 (1)生徒支援体制 ア すべての生徒に対して適切な指導と必要な支援を行い、SC・SSWを活用し自立と社会参加に向けて一貫した教育支援を継続して行う。 イ 教育相談体制を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・支援を行う。 ウ あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される心の通う教育を実現する。 エ 生徒にとって、学校が学びの場だけではなく安心して居ることのできる・楽しい場所と感じられる学校をめざす。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒(R4 81% R5 71% R6 75%)を令和9年度までに80%に引き上げる。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「人権について学ぶ機会がある」と答える生徒(R4 90% R5 86% R6 92%)を令和9年度までに90%に引き上げる。 (2)安心で安全な学校づくり ア 生徒が安心して授業や実習を受けることができるように、授業を受ける(社会的・設備的)環境を整備する。 イ 災害時における連絡体制の確立と防犯防災教育の充実 ※生徒向け学校教育自己診断において、学校安全の項目における肯定率(R4 84% R5 85% R6 86%)を令和9年度までに90%に引き上げる。
4 校務の効率化と働き方改革の推進 ア ICT教育を充実し職務の効率化をはかる。 イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ教職員の健康管理体制を充実する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成	(1)基礎的・基本的な 学力育成 ア 個別の指導方法 の工夫、教員間で生 徒の情報を共有	(1) ア「わかる授業」授業を展開し学習意欲を高 め確かな学力を育成する。 ・授業ごとにまとめのレポートや小テストを 実施し授業参加の実感と実績を残す。 ・ICT 機器を活用しわかる授業を推進する。 ・グループワークや調べ学習等を促進する。 ・実習等の環境を整備し教育効果を高める。 ・生徒の情報交換の場を設定する。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）におけ る授業・評価に関する項目の肯定率 85%[83%] ・学校教育自己診断（教員）における ICT を活用した授業に関する肯定率 100%[100%] ・生徒情報会議の開催 6 回[6 回]	(1)
	イ ものづくりを通 して、キャリア像の 現実化と自己肯定感 の向上	イものづくり指導を推進する。 ・探究・課題研究の成果を発表する機会を作 る。 ・ものづくりコンテスト等への出品をする。	イ ・課題研究発表会 1 回 ・技術コンクールや各種競技・作品展 への参加 3 回[4 回]	
	ウ コミュニケーシ ョン力の向上	ウ校内外で、他言語を活用したコミュニケー ション活動を体験し能力の育成をはかる。	ウ・韓国朝鮮語のコンテスト等参加 5 点[12 点] ・英語検定等受験者 1 名以上[0 名]	
	(2) 教員のスキルア ップにより魅力ある 学校づくりをめざす。 ア 教員のスキルア ップ イ 質の高い学びと 指導の提供	(2) ア教員スキルの向上をはかる。 ・公開授業週間を活性化し、「主体的・対話的 で深い学び」の実現をめざした授業力、指導 力の向上に努める。 ・他校との交流をはかり、授業力・指導力の 向上に努める。 イ効果的な学びの提供と自己実現支援する。 ・授業や HR 等で 1 人 1 台端末を有効活用する 機会を増やす。 ・StudyRoom 利用を推進し、学習する習慣を養 う。 ・校内外の職員研修を実施する	(2) ア・公開授業週間 1 回 [1 回] ・授業参観週間 1 回 [1 回] ・他校教員との交流研修会 5 教科[4 教科] ・学校教育自己診断（生徒）における他 の先生が授業を見学に来ることがある 項目の肯定率 90%[92%] イ・学校教育自己診断(生徒)における 「学校は1人1台端末を効果的に活用して いる。」90% [94%] ・StudyRoom 利用者 80 名以上[64 名] ・職員研修の実施 4 回 [5 回]	
2 基 本 的 生 活 習 慣 を 育 成 す る と 共 に 地 域 連 携	(1)基本的生活習慣 の向上 ア 基本的生活習慣 の充実	(1) ア登下校時の校門指導により生徒とのコミュ ニケーション機会を増やし、生活規律や学習 規律などを通じて基本的習慣を身に付けさせ る。学校に登校し授業に出る習慣を作る。 ・遅刻・欠席した者への指導。 ・早退防止と授業の出席を促すための巡回当 番制度	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）におけ る「登校・クラスの楽しい」項目の肯 定率 70%[76%]「学校へ行くことを楽 しい」の肯定率 75%[75%] ・遅刻件数 1400 回以下[1580 回] ・早退件数 140 回以下[159 回]	
	イ 中途退学・不登校 防止、生徒の状況に応 じた教育活動を推進 する	イ・不登校生徒への家庭連絡、家庭訪問を強化 する。 ・SC や SSW の活用を促進し退学生徒を減少す る。 ・居場所事業や studyroom 以外にも早く学校 へ登校し何らかの活動支援や安心して存在で きる場所としての学校を作る。	イ・退学する生徒 6 名以下[1 名] ・学校教育自己診断(生徒)における「学 校に行くのが楽しい。」80% [75%]	
	(2) キャリア教育の 推進 ア 進路支援体制	(2) ア・探求や HR を通じて就労意欲を高める。 ・地域企業と連携し、就業率向上をはかる。	(2) ア・就職内定率の 100%維持 [100%] ・就業率の向上 75%[78.9%] (10 月)	
	イ 職業意識の向上	イ・外部講師等の講話を実施する。	イ・外部講師講演会実施 1 回 [1 回]	

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

を 活 用 し た キ ャ リ ア 教 育 の 推 進	ウ チャレンジ精神 の育成 (3)地域連携の推進 ア 地域貢献活動・ボ ランティア活動 イ 広報活動の充実	・地域企業と連携した職場体験・実習等を実施する。 ウ各種資格・検定を見通して生徒への自己肯定感と将来の意識づけを行う。 (3) ア・地域の団体との連携等、地域イベント等に参加協力する。 ・生徒会が主体となった地域清掃活動を実施する イ中学校訪問の実施（多様な生徒の進学先としてのPR)	・職場体験・実習等参加者数2名[0名] ・学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率80% [87%] ウ資格検定受験者のべ10人以上[12人] (3) ア・出前授業や地域イベント等への参加2回 [2回] ・地域清掃活動4回[4回] ・中学校訪問10校以上[7校] イ・学校案内12件以上[12回]	
3 安 全 で 安 心 な 学 校 づ く り の 推 進	(1)生徒支援体制 ア 個別の生徒支援 イ 教育相談体制 ウ 人権教育 (2)安全で安心な学 校づくり ア 授業環境の整備 イ 防犯防災教育	(1) ア SC・SSW や外部機関と連携をはかりながら、担当分掌が中心的な役割を果たし、生徒支援会議を定期的に開催し、ヤングケアラーなど支援を必要とする生徒の情報共有や支援方法を検討する。 イ生徒が気軽に相談できる教育相談室をめざして環境整備を行う。 ウ HR や行事等で指導を行い、互いに尊重し合う態度を育成し、いじめ・暴力を許さない環境づくりを行う。 (2) ア・すべての生徒にとって「わかる、できる」授業をめざし、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。 ・実習設備施設共に安全で効果的な環境を整備する。 ・HR 教室及び校内の清掃活動を行い、環境の美化を徹底する。 イ・HR 等で防犯・防災教育を実施する。 ・生徒・教員における災害時の連絡体制を整備する。	(1) ア・生徒支援会議及びケース会議を毎月実施 ・支援会議 12回[13回] ・ケース会議 20回[47回] イ・教育相談室来室者60名以上[48人] ・学校教育自己診断における教育相談項目の肯定率（教員）90%[89%]（生徒）85%[85%] ウ・学校教育自己診断（生徒）における人権教育項目の肯定率 85%維持 [89%] (2) ア・学校教育自己診断（生徒）における授業改善の肯定率85% [79%] イ・生徒避難訓練1回 [1回] ・学習支援連絡網を活用した緊急連絡体制の継続・安否確認訓練1回 [1回]	
4 校 務 の 効 率 化 と 働 き 方 改 革 の 推 進	校務の効率化 ア ICT による校務の 効率化 イ 労働安全衛生管 理体制の充実	ア・ICT やデジタル教材を活用するなど、校務の効率化をはかる。 ・会議打ち合わせ等の効率化 ・会議資料・職員連絡のデジタル化を推進するための環境整備 イ「府立学校における働き方改革に係る取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化をはかる。	ア・ICT 活用における業務効率向上 学校教育自己診断における、「コンピュータ等のICT 機器が、授業などで活用されている。」(教員)100% [100%] ・ペーパーレス職員会議の実現 ・教員の1人1台端末100% [100%] イ・年次休暇取得日数13日以上 [16.4日] ・学校閉庁日の拡大15日[18日]	